

『明解 古典講読 日本の説話』

発行者番号	教科書の記号・番号
1 5 三省堂	講読 0 1 4

B 5 判、1 2 0 ページ

< 1. 編集方針 >

- 数ある古典作品の中から、多読と速読が可能な説話文学に的を絞った教科書です。
- 説話文学を読み味わい、その楽しさ、奥深さを実感しながら、用いられていることばの力、ことばの豊かさを、学習者が自らの糧として獲得することをめざしています。
- 日本文化の特質を知り、学習者の古典に対する興味・関心を喚起し、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てることを意図しています。

< 2. 構成、教材の配置 >

- 多読と速読とが可能な説話文学の特徴を生かし、古文に親しむことができるよう、全体を「イントロダクション」「Ⅰ」「Ⅱ」の三パートに分け、段階的に教材を配列し、教材提示のしかたにも段階を設けました。

< 3. 教材選定の観点 >

- 描かれている思想や感情が時代を超えた普遍的な感動を呼び覚まし、読むという行為の知的な楽しさを実感できるよう、説話文学ならではの魅力に満ちた素材を選びました。
- 登場人物や物語を、変化に富む現代に生きる高校生が身近に感じられるよう、さまざまな職業や階層の人々の様子が生き生きと描かれているものを採録しています。

< 4. 言語事項、教材化、学習上の配慮 など >

- 教材末には「学びの道しるべ」「学習の手引き」を置き、内容理解や、語法的な事柄を学ぶための課題を設けています。
- 詳細な読み取りに終始することなく、楽しみながら内容を読み取っていくことを第一に考え、脚注の他に、部分的な現代語訳を示すなど、多読・速読を可能にするさまざまな工夫をしています。
- さまざまな言語活動を通して学習を深めることができるよう、採録作品に即したコラム的なコーナーを、適宜設けています。
- 教材本文に出てくる語句の中から、古文を理解する上で鍵となる単語を注欄の末尾に掲げて注意を促すとともに、それらを巻末に五十音順に配列・整理し、簡単な意味を付しています。
- 読解や鑑賞の補助的資料としての写真・図版を、鮮明さ・見やすさを重視して選定・掲載しています。